

2023.11 月天覧山・多峯主山山行報告

11.13 三浦記

☆日 程：11/12（日） 天候：終日曇り、冬の寒さ

☆行 程：

飯能駅北口 9：30⇒能仁寺（庭園観賞）⇒天覧山登山口⇒天覧山（197m）⇒見返り坂⇒尾根道分岐⇒多峯主山（270m）⇒御嶽八幡神社⇒永田大杉バス停⇒ドレミファ橋⇒吾妻峡⇒中平河原⇒大河原⇒飯能河原⇒15：00 頃飯能駅北口

☆参加者（敬称略）：三浦(L)、河野、須永、上島、宿輪、高木、鈴木（典）、小川、三好、浮津、松本

11名

☆所 感：(注) 下記感想文は、AI（チャット GPT）との合作

きょうは、終日曇り空が広がり、冷たい冬の寒さが身にしみました。この日、私は晩秋の奥武蔵に位置する天覧山・多峯主山を歩きました。初めに天覧山登山口の手前にある能仁寺に立ち寄りしました。「能仁寺」は室町時代に創建された寺院で、江戸時代は徳川綱吉と縁が深くその時代には飯能を代表する寺院に。本堂の裏にある庭園は桃山時代に造られたとされる池泉鑑賞式庭園で飯能市指定名勝になっています。

折角なのでこの由緒ある庭園を観賞（¥300）することにしました。その美しさに圧倒されました。冬の寒さも感じさせないほど、静謐で穏やかな雰囲気は漂っていました。紅葉がもう少し進めば、もっと素晴らしい光景に出会えたことでしょう。しかし、その季節の美しさを感じられる余白を楽しむことができ、それはまた一味違った趣を醸し出していました。

奥武蔵の天覧山・多峯主山への歩行は、冬の寒さが厳しい中でも、自然の美しさと雄大な景色に心が引き込まれました。木々が枝を伸ばし、まだ紅葉が始まっていない晩秋の風景が、静寂と調和の中で広がっていました。寒風が頬を刺す中でも、その美しい風景に心が温まりました。

この日の歩きは、寒さと広がる曇り空にも負けず、能仁寺の庭園から始まり、べの吾妻峡の静けさはまさに幻想的でした。紅葉はまだその彩りを放っていないなか、峡谷は深い沈黙に包まれていました。冷たい風が吹き抜け、葉がまばらに舞い散る中で、大自然の穏やかな息吹を感じました。

岩肌や木々はまだ秋の装いに身を包んでおらず、その無垢な姿が静けさを一層際立たせていました。吾妻峡はまるで眠りに落ちたようで、その中にただ一人立ちこめる静寂は、心に深い感慨を呼び起こしました。

風の音も微かで、まるで大地自体が静かに息を潜めているかのようでした。この時期独特の寂しさと美しさが同居する吾妻峡の風景は、まさに心の中に響く静寂の詩となりました。

冬を思わせる寒さと晩秋の美しさが交錯する中で、奥武蔵の自然と調和した歩行で終え、心に残る素晴らしい一日となりました。

写真：<https://youtu.be/xE7-NUw5xIs>

